

説教余滴 2020年5月24日「しゅうそく」

コロナウイルス感染症の拡大はいつまで続くのでしょうか。疾病の世界同時大流行、パンデミックは、歴史上何回も繰り返されています。何の準備もなく、突然降りかかってきた想定外のこと、という言葉が行き交いました。大震災の時と同じく学者先生、専門家の言葉です。そうであれば、研究の方向が間違っていた、ということでしょう。方向違いは罪です。

方向に関しては、政治家の責任が問われねばなりません。日本では小泉政権そして民主党政権は、合理化こそ改革であるとして大ナタを振るいました。国民は拍手喝采しました。長い目で見ると、災害に備える予算も削りました。心ある人は憂えました。

さて現在のコロナ感染は、いつ終わるのか、最大の関心事です。脇にそれたお話をします。

この問題が報道される時、よく用いられるのが「しゅうそく」という言葉です。同音異字があり、使い分けに苦心します。

まず「終息」について。「終」は、文字どおり「終わる」意味です。最終、終の棲家、などの使い方があります。そして「息」には、「止<や>む」という意味があります。つまり「終息」は、似た意味の漢字を2つ重ね合わせて「完全に終わる」という意味になっていると考えることができます。

次に「収束」について。これは「収まる」「束ねる」ということから、人間的な意図・作業により、「(状況・事態などが)ある一定の状態に落ち着く」という意味に用いられます。

ここから、新型肺炎の「完全制圧」の場合には「終息」、(完全制圧ではないにしても)新型肺炎に関する(社会的)状況などがかなり落ち着いてきた場合には「収束」、ということになります。

「終息」が「完全制圧」であるのに対して、「収束」の場合には、ほぼ事態が収まっていることが意味されます。